

Dripping shape

KUNST ARZT では、2年ぶり3度目となる森田志宝の個展を開催します。
森田志宝は、糸に漆を塗り、無数の漆玉が連なる“漆糸”を空間に解き放つアーティストです。表面張力という自然現象から生まれた漆玉は、水滴のようなみずみずしさと美しさを内包し、糸に生命感を与えます。
本展は、一年間塗り育てた漆玉を軸にしたインスタレーションです。
また、今年の京都府新鋭選抜展にて優秀賞を受賞しました。
(KUNST ARZT 岡本光博)



Dripping_a
2023
朱漆・絹糸
漆玉を一年間塗り育てる試みの途中経過を写したものの。

経歴

1990年 京都府出身
2016年 富山大学大学院芸術文化科学研究科 修了

個展

2014年 「clearunclear」(企画展 ARTBOX152) 西田美術館 / 富山
2017年 「こびりついた偶然」 Ohshima Fine Art / 東京
2019年 「漆の表面張力」 KUNST ARZT / 京都
2019年 「漆雫」 穂上画廊 / 富山
2021年 「滴の放流」 KUNST ARZT / 京都
2021年 「滴を育てる / Growing drops」 ギャラリー無量 / 富山
2021年 「球体の正体」 彗星倶楽部・古道具緑青・石引にて / 石川

グループ展

2013年 「recollection~素材と時間~」 ギャラリー無量 / 富山
2015年 「Boundary line」 ギャラリー無量 / 富山
2016年 「新進芸術家育成交流作品展 FINE ART/UNIVERSITY SELECTION 2016-2017」 茨城県つくば美術館
2017年 「雲の上の展覧会」 富山市民プラザ
2018年 「アートの今」 アートハウスおやべ / 富山
2019年 「つつみ-みえるとみえない、作品展」 富山市民プラザ
2021年 「花のの - Other Fields」 富山市民プラザ
2023年 「Kyoto Art for Tomorrow 2023 -京都府新鋭選抜展-」 京都文化博物館
2023年 「漆表現の現在 Vol.3」 日本橋高島屋 S.C. 本館 6階 美術画廊 X / 東京

賞歴

2014年 「越中アートフェスタ 2014」 立体部門 優秀賞、富山県文化振興財団賞
2015年 「神通峡美術展」 インスタレーション部門 奨励賞
2016年 日本漆工奨学賞
2016年 「高岡クラフトコンペティション 2016」 漆奨励賞
2017年 「第一回公募アートハウスおやべ現代造形展」 大賞
2023年 「Kyoto Art for Tomorrow 2023 -京都府新鋭選抜展-」 優秀賞・アンスティチュ・フランセ関西賞

2023年5月2日(火) から7日(日)

12:00 から 18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

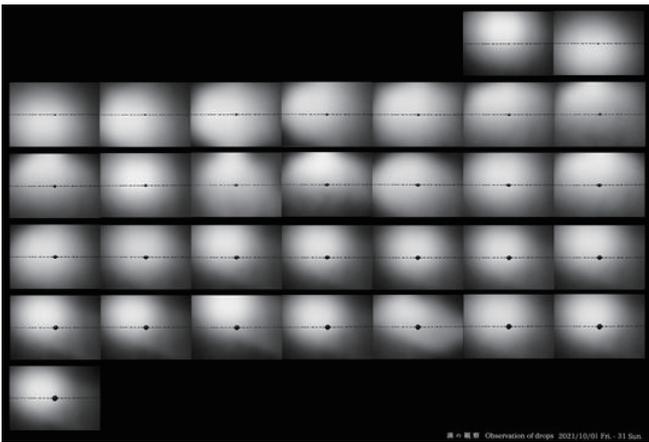
kunstarzt@gmail.com

アーティストステートメント

蜘蛛の巣に雨粒がつく様子から着想を得て、糸に漆を塗り始める。
漆は表面張力によって球体になり、無数の漆玉が発生した。
私はこれを「漆糸」と呼ぶ。
漆糸を空間の重力にさらし、素材や自然現象と向き合うことは
未だ知らない漆のかたちを知る手がかりになると考える。

展覧会コンセプト

糸に生まれた漆の「滴を育てる」ことをテーマに、2021年10月、
漆玉に漆を一ヶ月塗り続けて成長する様子を、
写真と文章で記録する「滴の観察/Observation of drops」を行った。
はじめ0.1mmほどだった漆玉は、最終日には0.9mmになった。
漆が垂れて固まることを繰り返し、漆そのものがかたちを作る過程に興味を持った。
今回は2022年4月からの約1年間、滴を育てたものを中心に展示したい。



滴の観察/Observation of drops

2021

朱漆・絹糸

一ヶ月間、漆糸の一部に漆を塗り続けた。

漆玉が育つ成長過程を写真と文章で記録する。

Lacquertree-06

2023

朱漆・絹糸

15年以上かけて育てられた木は、
漆を取り終えると

伐採され死んでしまう。

漆糸を束ね集めることで、

一本の木の命を視覚化する。